

様式 1

本事業の自走化計画

① 自走化の実現に向けた取組内容【2 ページ以内】

1. 基金の設置

(1) 基金の組み換え

既存の第3号基本金を一部組み換え、SGU 事業の基金を新たに設置する。

(2) 寄付金の募集

2018 年度～2023 年度に本学卒業生および保護者等を含む本学ステークホルダーを対象とし SGU 寄付事業、50 周年寄付事業を行い、これを上記の基金に組み入れる。

上記を合計し、30 億円を目処に上記「SGU 事業基金」を設ける。

2. 中長期計画への反映、学内予算への内在化

(1) 中長期計画への反映

2020 年度に発表予定の本学「グランドデザイン 2021-2030」において、国際戦略として「SGU 事業の成果をもとに発展的な目標を設定した中長期計画」を策定する。

(2) 学内予算への内在化

①「補助対象経費の総額」として 6000 万円を下限として確保する。補助金との差額は、大学予算より支出する。

事業終了後は継続取組経費 6000 万円（事業最終年度と同規模）を、前述「1. 基金の設置」による運用収入により支出する。

②派遣・受入学生の奨学金については、従前通り大学予算より支出する。

3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進

本学の構想に掲げる「人間教育の世界的拠点」へ向けた取り組みを、グローバル・コア・センターが継続して推進する。

② 取組内容の年度別実施計画【2ページ以内】
<p>【2019年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新たに基金（SGU 事業推進を目的）を第3号基本金に設置する方針を理事会で決定する。 2. 中長期計画への反映 2020年度に発表予定の本学「グランドデザイン 2021-2030」において、国際戦略として「SGU 事業の成果をもとに発展的な目標を設定した中長期計画」を検討する。 (2) 学内予算への内在化 派遣・受入学生の奨学金について、基金運用収入で不足する金額は大学予算より支出する。 3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進 本学の構想に掲げる「人間教育の世界的拠点」へ向けた取り組みを、グローバル・コア・センターが継続して推進する。
<p>【2020年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金の設置及び組み入れの開始 <ul style="list-style-type: none"> ・第3号基本金の一部組み換え等により、SGU 事業基金（仮）を設置する。 ・SGU 寄付事業による寄付金を上記基金に組み入れる。 2. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進（継続実施）
<p>【2021年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金への組み入れ <ul style="list-style-type: none"> ・寄付金の募集・組み入れ 2. 学内予算への内在化（継続実施） 3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進（継続実施）
<p>【2022年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金への組み入れ <ol style="list-style-type: none"> (1) 基金の運用収入の支出目的を明確化（継続実施） (2) 寄付金の募集・組み入れ 2. 学内予算への内在化 「補助対象経費の総額」の下限を6000万円に設定し、補助金不足額については大学予算で補うよう予算編成 3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進（継続実施）
<p>【2023年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基金の完成 <ul style="list-style-type: none"> ・寄付金の募集、組み入れ 2. 学内予算への内在化（継続実施）

3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進（継続実施）

【2024 年度以降】

1. 基金の設置

基金（第3号基本金）の運用収入について、事業終了後は継続取組経費として支出する。

2. 中長期計画の推進、学内予算への内在化

(1) 中長期計画の推進

本学「グランドデザイン 2021-2030」にて定めた「本事業の成果をもとに発展的な目標を設定した中長期計画」に基づき継続取組を推進

(2) 学内予算への内在化

①事業終了後も継続取組経費 6000 万円（事業最終年度と同規模）を、前述「1. 基金の設置」による運用収入により支出する。

②派遣・受入学生の奨学金については、従前通り大学予算より支出する。

3. グローバル・コア・センターによる継続した取り組みの推進

本学の構想に掲げる「人間教育の世界的拠点」へ向けた取り組みを、グローバル・コア・センターが継続して推進する。

様式2

資金計画

事業対象経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て						
年度(西暦)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
補助事業経費の総額	37,576	93,518	88,212	81,908	78,349	
内訳	補助金の金額(※1)	37,576	92,000	82,800	78,660	74,230
	自己収入その他の金額	0	1,518	5,412	3,248	4,119

年度(西暦)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
補助事業経費の総額	68,644	62,334	60,000	60,000	60,000	
内訳	補助金の額(※1)	63,096	56,786	51,108	45,997	41,397
	自己収入その他の金額	5,548	5,548	8,892	14,003	18,603

年度(西暦)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
補助事業経費以外の支出予定額 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て	259,000	277,000	307,000	314,000	316,000

(※1)2014年度から2018年度までの「補助金の金額」は交付決定額(変更後)ベースで実績を記載すること。(但し、2019年度は当初交付決定額ベース。)2020年度以降の補助金の額は便宜的に2019年度の額を毎年10%減じた額を記入すること。実際の補助金の額とは異なる。

(※2)文部科学省や他省庁が実施する他の補助金(公募要領P11参照)は「自己収入その他の金額」に計上しないこと。

(※3)国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「自己収入その他の金額」に計上しないこと。

(※4)「補助事業経費以外の支出予定額」については、2019年～2023年において、事業対象経費ではないが、本事業(SGU)に関連して支出する予定の額を計上すること。例えば、大学独自で実施する取組として、運営費交付金に内在化した金額(公立大学の場合は運営費交付金等、私立大学の場合は私立大学経常費補助金等)や文部科学省が実施する他の補助金事業のうち、本事業の自走化に係る金額は、この欄に記入すること。

1. 取組状況

様式 3

財政支援期間終了後について【4ページ以内】	
財政支援期間終了後の事業展開（構想調書からの転載）	財政支援期間終了後の事業展開に向けた資金計画
<p>本学は、平成 20 年から中長期計画策定のための全学的な検討を重ね、平成 22 年に本学独自の 10 ヶ年発展計画「創価大学グランドデザイン」を策定した。このグランドデザインでは、「教育戦略」や「研究戦略」と並んで「国際戦略」を多文化共生の理念のもと定めた。具体的には「海外派遣留学生の拡大と多様な留学形態」「受入外国人学生の増加」など様々な国際化推進事業を計画し、実行した。またこのグランドデザインの検討の中から「Global Citizenship Program (G C P)」や「国際教養学部」の新設が産み出された。当然本学が独自に財政負担し、推進してきたものである。</p> <p>平成 24 年度にグローバル人材育成推進事業（特色型）に採択されたが、例えば海外派遣留学生の拡大目標は、このグランドデザインでの本学の派遣目標を 4 年間前倒しする内容となった。そのため派遣留学生を拡大するための教職員の派遣やプログラムの立案などは補助金を使用し、学生個人への助成は本学の奨学金制度を活用するなど、<u>本学グランドデザインとグローバル人材育成推進事業は、役割を立て分けつつも目標達成のために相互にシンクロしながら成果を上げてきたところである。</u>本構想に採択された場合でも、本学は平成 32 年までは現「グランドデザイン」に沿った取組を行い、引き続き創立 60 周年（平成 42 年）に向けた「創価大学グランドデザイン 2.0」（仮称）の策定により、継続的な「国際化」「大学改革」に取り組む。<u>特に「国際戦略」については、本構想で網羅的に計画されたことを「グランドデザイン 2.0」に反映させ、平成 42 年度までの継続的な取組を明らかにする。</u>なおこの「グランドデザイン 2.0」の学内での検討、議論は、平成 30 年度まで行い、平成 31 年には発表する予定にしている。したがって、本構想の財政支援期間終了後においても、「グランドデザイン 2.0」で計画した事業として継続して実施する。体制図にもある通り、グランドデザインの「国際戦略」を企画する「国際戦略室」が、本構想においても重要なポジションを占めている。国際戦略室の担当が「国際交流担当理事」であることから、法人を含めた全学的な検討が行われ、財政面にも裏打ちされた継続的な中長期計画となる。</p>	<p>【これまでの取組状況】</p> <p>平成 22 年に発表したグランドデザインは、平成 21 年から平成 32 年までの 12 年間で 4 年で区切り、3 つのステージで計画を実行することを標榜している。これらの取り組みを着実に履行することに加え、様々な環境の変化にも対応するため、前半の 6 年間（平成 21 年～平成 26 年）を総括し、グランドデザインを再考した。</p> <p>「創価大学総合戦略会議」の下に、教育戦略、研究戦略、国際戦略、学生支援戦略、広報計画・ステークホルダー対策、管理運営計画、キャンパス・財政計画の各組織を設置し、これまでのグランドデザインをさらに強化する中期的な戦略を検討した。そして、平成 27 年 11 月、「創価大学グランドデザイン 2015-20」を発表するに至った。</p> <p>翌 28 年には「グローバル・コア・センター」を開設し、「国際戦略室」のもと、本学における徹底した国際化に取り組むための恒常的機関として、各学部・研究科や、関連する事務部局と連携・調整を図り、本学のグローバル戦略推進を統括している。</p> <p>構想実現にむけ、外国人留学生の受け入れを促進し、異文化交流を通して相互理解を深めながら、国際的に活躍できる人材を輩出していくことを目的として、平成 29 年 3 月に二つの国際学生寮をオープンした。これにより、今後ますます増加する外国人留学生の受入れにも対応でき、安心して学べる環境が整備された。</p> <p>これら一連の取組は、本事業採択以前に構想した創立 50 周年（令和 3 年）を目指した国際化戦略に基づくものであり、各年度の補助金交付額に関わらず、自己負担により事業規模の維持・拡大に努めてきた。本事業による財政支援は本学の国際化を加速させる大きな一助となった。</p> <p>【これまでの取組における課題】</p> <p>これまで、留学生の受入、学生の海外への派遣、語学力アップなど、数値目標を</p>

本構想の財政支援の終了が予定されている平成 35 年を超えて、本学が展開する国際化推進のための事業の方向性については、以下のように示すことができる。

- ①さらに多くの海外交流校を開拓し、多様な学生交換事業を推進
- ②学生交換事業を通じて本学のカリキュラムの国際通用性を向上させ、学問的内容が国際的に標準化されている学問分野においては、交流校との間でダブル・ディグリー・プログラム等、さらに高付加価値の教育プログラムを開発
- ③さらに多くの留学生受入を通じて、本学の全学部・大学院の課程で英語による学習コースを拡充
- ④海外諸大学との教員交流の拡大を通じた本学教員の研究力・教育力の充実。特に、本学教員の英語による研究業績の公表を促進し、各種の世界ランキングの指標による評価も可能な研究分野を本学の強みとして構築
- ⑤全学的規模で外国人学生を受け入れることにより、本学事務組織のあらゆる部署において、留学生受入に必要な語学力と事務能力を有する職員の数を拡大
- ⑥学生交換事業のさらなる効率的な運営に必要な危機管理体制の整備、情報公開の推進、成績・単位認定手続を始めとする学内諸手続・制度の継続した拡充
- ⑦受入留学生の増加に対応した日本人学生との混住寮の拡大、その他学内の各種施設の更なるグローバル化への対応を促進

以上の取組を通じて本学は、日本と海外各国との友好親善と協力の拡大に貢献する「創造的世界市民」のさらなる育成を図り、人間教育の世界的拠点を形成する。

順調にクリアしてきた。その背景には、学費減免制度や給付型奨学金の充実等、理事会を含めた全学的なバックアップ体制が構築されていたことがあげられる。本事業期間内は、予算面でも優先的に様々な取組を推進する措置をとることになっているが、財政支援期間経過後、本学内に取組を継続するための財政基盤を確立する（後述【今後の展望】に詳細を記載）とともに、効率的で財政負担を軽減できる工夫が必要である。そのためにも、これまでの成果の要因を IR 的に分析することが肝要である。

【今後の展望】（自走化に向けた具体的取組）

以下、「基金の設置」「中長期計画への反映、学内予算への内在化」を柱として資金計画を立てる。

1. 基金の設置

（1）基金の組み換え

既存の第 3 号基本金を一部組み換え、SGU 事業の基金を新たに設置する。

（2）寄付金の募集

平成 26 年度～令和 5 年度に本学卒業生および保護者等を含む本学ステークホルダーを対象とし SGU 寄付事業、50 周年寄付事業を行い、これを上記の基金に組み入れる。

上記を合計し、30 億円を目処に上記「SGU 事業基金」を設ける。

2. 中長期計画への反映、学内予算への内在化

（1）中長期計画への反映

令和 2 年度に発表予定の本学「グランドデザイン 2021-2030」において、国際戦略として「SGU 事業の成果をもとに発展的な目標を設定した中長期計画」を策定する。

（2）学内予算への内在化

- ①「補助対象経費の総額」として 6000 万円を下限として確保する。補助金との差額は、大学予算より支出する。

事業終了後は継続取組経費 6000 万円（事業最終年度と同規模）を、前述「1.

	<p>基金の設置」による運用収入により支出する。 ②派遣・受入学生の奨学金については、従前通り大学予算より支出する。</p>
--	--------------------------------------------------------------------